自民 山陰4議席独占

1区 石破氏 盤石の戦いで11選
2区 赤沢氏 4度目対決で5選

第48回衆院選は22日投開票され、山陰両県4小選挙区は自民党前職が全勝し、議席を独占した。鳥取1区は石破茂氏＝公明党推薦＝が、共産党新人の塚田成幸氏を抑えて11選。同2区は赤沢亮正氏＝公明党推薦＝が、希望の党元職の湯原俊二氏＝民進党鳥取県連推薦＝、共産党新人の福住英行氏を破り5選を果たした。島根1区は細田博之氏＝公明党推薦＝が10選。同2区は竹下亘氏＝公明党推薦＝が7選を決めた。島根1区で敗れた立憲民主党新人の亀井亜紀子氏＝社民党、民進党島根県連推薦＝は比例中国ブロックで復活当選した。湯原氏と、島根2区の社民党新人の福原宗男氏＝民進党島根県連推薦＝は復活当選がならなかった。投票率は鳥取が前回選と比べ2・05ポイント増の56・43％。島根は1・40ポイント増の60・64％で、戦後2番目の低さだった。

花束を手に支持者の祝福に応じる赤沢亮正氏＝22日午後8時14分、米子市加茂町1丁目の事務所（山根行雄撮影）

11選を果たし、万歳をして喜ぶ石破茂氏＝22日午後8時9分、鳥取市戎町の事務所（園慎太郎撮影）

鳥取

＜1区＞

自民党前職の石破茂氏が厚い支持基盤と知名度を生かして共産党新人の塚田成幸氏を圧倒し、11選を決めた。得票率は83・6％で目標とした2012年前々回選の84・5％に迫った。

石破氏は、安倍1強への不満が有権者の間にくすぶることを念頭に「謙虚で誠実で正直な党を取り戻す」と信頼回復を強調。経済政策の「アベノミクス」に異を唱えるなど「ポスト安倍」への意欲をにじませ、幅広い支持を得た。政策では、地方創生の再加速と、緊張が高まる北朝鮮情勢を受けた安全保障の確立を柱に掲げ、担当の閣僚を歴任した経験と将来展望をアピールした。

ただ、3回連続の自共対決に加え、本人が2日しか選挙区に入らなかったためムードは低調で、陣営が盛り上げに腐心。「県内初の首相」への期待をあおり、推薦を受けた農業、建設など120以上の支援団体を固めたほか、不戦敗だった希望、立憲民主両党の支持層などにも食い込んだ。

塚田氏は、憲法9条改正反対を柱に安倍政権批判票の獲得を狙ったが、現政権と一線を画す石破氏を攻めきれず、不満の受け皿になれなかった。

（原田准吏、糸賀淳也）

＜2区＞

自民党前職の赤沢亮正氏が党の組織力を生かし、4度目の対決となった希望の党元職の湯原俊二氏に約2万票差を付け、5選を決めた。湯原氏は党に追い風が吹かず、共産党新人の福住英行氏は2人の戦いのはざまに埋没した。

赤沢氏は、安倍政権への批判を念頭に所属派閥領袖の石破茂氏と同様、選挙戦を通じて低姿勢に徹した。ライバルとなった希望の党については「都市型政党であり、東京一極集中を加速させる」と攻撃して地方重視を主張。一方で、個人演説会を1日3～4回開いて政策の説明に力を入れ、政権批判を前面に出す野党との違いを際立たせた。

短期決戦の中、地域支部や地方議員が稼働。公明党をはじめ、JAなど業界団体からも多数の推薦を取り付け、組織戦を展開した。

民進党からくら替えした湯原氏は、安倍政権批判票の獲得を狙った。2018年産からのコメの生産調整（減反）廃止で不安の強い農家には戸別所得補償制度の復活を訴え、支持拡大を図った。

だが、安全保障関連法に賛成するなど民進党と政策が異なる希望の党入りで釈明に追われたほか、推薦した連合鳥取傘下の労働組合の一部が離れた。肝心の党への期待感も、民進党分裂を招いて急速にしぼんだ。

福住氏は、安保関連法や憲法改正への反対などを強調して精力的に街頭演説を重ねたが、存在感を示せなかった。

（陰山篤志、狩野樹理、中島諒）

鳥取選挙区開票結果

1区（22日午後11時24分、選管最終）

当	106,425票	石破　茂	60	自前
	20,829票	塚田　成幸	53	共新

2区（22日午後11時24分、選管最終）

当	72,827票	赤沢　亮正	56	自前
	53,312票	湯原　俊二	54	希元
	10,271票	福住　英行	41	共新

2区　赤沢　亮正（あかざわ　りょうせい）（自民推公明、前）

元内閣府副大臣。党国対副委員長。1984年、運輸省（現国土交通省）入省。大臣官房総務課企画官、旧日本郵政公社出向などを経て、2005年の衆院選鳥取2区に立候補し、初当選した。東京大法学部卒。米子市日ノ出町1丁目。当選5回。

当選者（敬称略）

1区　石破　茂（いしば　しげる）（自民推公明、前）

元地方創生担当相。党鳥取県連会長。銀行員を経て1986年の衆院選で初当選。防衛相、農相、党政調会長などを歴任し、2012年9月から2年間、党幹事長を務めた。党石破派会長。慶応大法学部卒。鳥取市上町。当選11回。

1区 細田氏 一騎打ち制し10選
2区 竹下氏7選 2新人を圧倒

島根

＜1区＞

小選挙区制導入以降、初の与野党一騎打ちとなった戦いは、組織力と高い知名度を生かした自民党前職の細田博之氏が10選を果たした。立憲民主党新人の亀井亜紀子氏は、公示前に所属していた民進党の分裂が最後まで尾を引いた。

細田氏は党最大派閥の会長で、選挙期間中に地元入りできたのは5日間。それでも2日間で計36カ所の演説を重ねるなど精力的に動き、公明党の選挙協力も得て票を上乗せし、亀井氏に約3万票差をつけた。

一方、亀井氏は民進党県連や社民党に加え、候補を取り下げた共産党の側面支援も受けた。しかし、一時は希望の党からの出馬を模索するなど、混乱。連合島根も新党への対応で割れるなど態勢が整わなかった。

（井上誉文、多賀芳文）

＜2区＞

7選を目指した自民党前職の竹下亘氏が、地域に張り巡らせた組織を生かし、社民党の福原宗男氏、共産党の向瀬慎一氏の両新人を寄せ付けなかった。

竹下氏の陣営は、本人がほぼ選挙区に不在だったものの、2区内34カ所の旧市町村支部で得票率70％台の目標を設け、党所属県議や地方議員らが地道に地域を歩いて票を固めた。

対する野党の2新人は消費税増税反対や護憲で主張が重なり合い、竹下陣営が警戒した政権批判票は分散した。

解散直前に擁立が決まった福原氏は、JR三江線廃止後の代替交通の在り方など地域課題への対応も訴えたが知名度不足が響いた。

向瀬氏も公示後、連日の街頭演説で反安倍政権の姿勢を鮮明にしたが、民進党の分裂による野党再編の影響を受け、埋没した。

（高橋利明、古和隆宏、和田守涼平）

島根選挙区開票結果

1区（22日午後11時7分、選管最終）

当	95,513票	細田　博之	73	自前
	65,285票	亀井亜紀子	52	立新

2区（22日午後10時42分、選管最終）

当	123,332票	竹下　亘	70	自前
	35,576票	福原　宗男	70	社新
	22,938票	向瀬　慎一	46	共新

当選者（敬称略）

1区　細田　博之（ほそだ　ひろゆき）（自民、前推公明）

元官房長官。党細田派会長。通産省（現・経済産業省）を経て、父の故・細田吉蔵元衆院議員の秘書。1990年衆院選で初当選した。沖縄北方対策・科学技術担当相、党幹事長、総務会長などを歴任。東京大法学部卒。松江市堂形町。当選10回。

2区　竹下　亘（たけした　わたる）（自民、前推公明）

党総務会長、党島根県連会長。NHK勤務を経て1985年から兄の故・竹下登元首相の秘書。2000年衆院選で初当選した。財務副大臣、第2次安倍改造内閣などで復興相を務めた。慶応大経済学部卒。雲南市掛合町出身。東京都世田谷区下馬。当選7回。

比例中国
自民・三浦氏 初当選
立民の亀井氏復活

比例中国ブロック（定数11）の山陰両県関係は、自民党から単独立候補した元大田市議の三浦靖氏（44）が初当選を果たした。島根1区で敗れた立憲民主党新人の亀井亜紀子氏は復活当選し、公明党単独1位の前職で党幹事長代行の斉藤鉄夫氏（65）＝島根県邑南町出身＝が9選を決めた。

11議席の内訳は、自民党5議席▽希望の党2議席▽公明党2議席▽立憲民主党2議席―。共産党は議席を失った。

自民党は小選挙区との重複立候補で名簿1位に据えた16人のうち、15人が選挙区で当選し、敗れた1人が比例で復活当選した。残り4議席が名簿17位以下に回り、20位の三浦氏が最後の議席をつかんだ。山陰両県の同党で比例単独候補の当選は、島根県の小選挙区定数が「3」から「2」に減少した2003年衆院選で比例に回った亀井久興氏以来、14年ぶりとなった。

2議席の立憲民主党は小選挙区に立った亀井氏と山口3区の新人、岡山1区の前職の3人を比例名簿1位に据えた。惜敗率68・3％だった亀井氏は、岡山1区の前職を上回り2位以内が確定し、復活当選した。2007年から参院議員を1期6年務めて以来、4年ぶりの国政復帰となった。

重複立候補していた鳥取2区の希望の党元職・湯原俊二氏、島根2区の社民党新人・福原宗男氏の復活はならなかった。

（森安哲史）

三浦　靖（みうら　やすし）（自民、新）

党島根県連青年局長。1997年4月から2005年3月まで、亀井久興元衆院議員秘書。06年4月の大田市議選で初当選し、3期務めた。市議会では総務教育委員長などを歴任。15年6月から現職。神奈川大法学部卒。大田市川合町。当選1回。

亀井　亜紀子（かめい　あきこ）（立憲民主、新推社民、民進島根県連）

党幹事。父の亀井久興元衆院議員秘書を経て、2007年参院選で国民新党から出馬し、初当選。1期6年務めた。16年に民進党島根県連副代表。衆院解散後、立憲民主党入りした。学習院大法学部、カナダ・カールトン大卒。松江市西津田6丁目。当選1回。

テレビ欄は9面